

☆私の意見

## 文化の未来像の実現にむかつて

吉川 進

△株式会社神戸風月堂取締役社長



私事にわたくつて恐縮だが、代々吉川屋新七の屋号のもとに回漕業、旅館、足袋商、洋服商、そして現在の菓子業に二百五十年、神戸と運命を共にしてきた。従つて神戸に対する愛情はまたひとしおである。ひとくちに京阪神といつても、千年の都京都、日本の代表的商都大阪に比べて、たとえ清盛の福原京の歴史はあっても、急速に発展したのは明治維新とするならば、歴史的遺産は京都、大阪には及ばない。しかしながら背後に連なる緑の山のみ、世界に通ずる紺碧の海と自然の恵みに抱かれる地理的環境は、他都市にみられない優位性が神戸にある。またこの立地条件に立脚したその進展は、現在フットライトを浴びる異人館、海岸通りに明治の情緒を残す居留地の香りを混然としてイメージ豊かな観光資源、産業資源を残した。

神戸は住みよい街、自然と食べ物に恵まれた快適な街との印象がある。もちろんそれも結構なことであるが、ベッドタウンに落ちついていては神戸の進展はもう望めない。産業経済の盤石の基礎の裏付けがなければならぬのである。ファッショントリノ都市宣言もひとつのおわれである。ファッショントリノという言葉から受ける感触は服飾衣料に限られるおそれがある。衣だけではない。食、住、相伴つて生活ファッショントリノ、生活文化を総合してのファッショントリノでなければならない。過去の歴史的資源は浅くとも、目を未来に転ずる時、そこには洋々たる前途がひろがるのである。神戸文化の貢献は今こそ開始されねばならない。五十年、百年の将来にわたつての未来像を描き、その実現に熱情を燃やしたいものである。

神戸には、日本に向つて、世界に向つて、価値あるものと誇り得るものに何があるのか。内外に向つて知らすに足る価値あるものが次から次へ生まれでる所に神戸の将来はある。神戸市民がひとつになってこの目標に燃える時、この大道は通じるだろう。「メード・イン・コウベ」とならんで「コウベ・イン・ワールド」を提唱した良識の街、感覺の街、神戸にかける期待はつきない。

# こうべに神戸らしい店を…

KOBE  
NIKKEN



店舗装備のプロフェッショナル  
**(株) 神戸日建**

本社 神戸市兵庫区御幸通3丁目2-20  
〒 651 ☎ (078) 251-3525(代)  
東京 東京都中央区日本橋3丁目2-17  
営業所 ☎ (03) 278-1369



「ノルテ」(中山手通1丁目、伸光ビル2F)

# 隨想



え・知念正文<神戸二紀>



コーチとして後輩の指導にも熱心な嶺尾さん

## テニスとわたし

嶺尾桂子  
△主婦▽

私はテニスとの出会いはもう二十四年前になります。小学六年の時、それまで住んでいた武庫之荘から住吉に移ってきた。

時です。引越しの日、私は大事に柱時計を抱えていたのですが母から「あれが新しい家よ」といわれた途端走り出して、見事にひっくり返ってしまいました。泣きべそをかきながら着いた家のすぐ横には、テニスコートがありました。

当時甲南大学の練習場になつていて、学校から帰ると、何もかも放り出して見物していたものでした。

実際にやり始めたのは、姉が高校に入った時ですから中学二年。学校ではバレーボールをやり、家に帰つて姉の練習相手をしているうちに面白くなつてきたのです。三年の夏に近畿中学生大会があり始めて優勝の味を知りました。そして私が高一、姉が高三の時、兵庫県の高校の試合は、二人で優勝

を争い、いつも姉に敗けて涙を呑んだものですから、目標にして励みました。

その頃父はまだサッカーで国体などに出て活躍していて、テニスは、女か、か弱い男のする遊びだけなして見向きもしませんでしたが、四十五才を過ぎるとさすがしんどくなつたらしく、指導書を読んでやり始めました。よく人は「お父さんの良きご指導のもとに……」なんて賞めて下さるけれど父は「学校で大勢の子供に教えるのに家に帰つてまで教えられるか」といつて勉強など少しも見てくれませんでしたから、テニスについてもそうで、遅く始めたテニスを上手になりたいために、自分に喰いついてくる私達を練習相手にしたので、腕も始終私達の方が上でした。

それから私は、日本生命にまる三年勤めましたが、デ杯選手だった古田さんや森さん始め、日生のテニス部の方々にテニスはもちろん人生の色々なことを教えて頂きました。関西ではシングルス、ダブルス、ミックスといくつか優勝することができます。勤めを辞めて田中千代服装学園に通つている時、ろくに練習もできませんでしたが、小幡さん（現高木夫人）と組んで全日本選手権で優勝することができましたので、選手生活のピリオドを

打つところでした。

その頃、テニスをしていた嶺尾と知り合ったのですが、結婚、育児と何年かのブランクはありましたが、テニスの魅力にとり憑かれ未だに続けています。そしてテニスの本場、イギリスやアメリカで試合を見たり、テニスをする夢のまた夢にして、今日もまた足がテニスコートに向っているのです。今テニスをしている人はとても多いですが、特に女性はフォームの美しい人の真似をして、素振りでも何でも、毎日少しでもテニスのための運動をして早く上達して下さい。楽しいですよ。

## ホッケー仲間は楽しい

山徳 容至男

△甲南大学助教授▽



自他ともに認める“ホッケーの虫”山徳助教授

私とホッケー（陸上）とのつき

あいは、戦後のまだ雰囲気とした、それでいてやや落着きをとり戻した昭和二十三年春に述べる。

当時天王寺高校に通っていた私は、友人の父の関係でホッケーの話を聞き、同じやるなら人のあまりしていないスポーツをと、ホッケー部の創部に参加した。

一年下の学年から突然、男女共学となり、今まで見たこともない女生徒のブルーマ姿に仰天しながら未知のスポーツに打ち込んだ。物のない時代で、ステイックも先はベニヤ板の貼合せ、本体は竹の細板の組合せたものを糸で巻いてあった。練習中、先と本体がすぐ離れ、接着に使う膠を溶かす強烈な臭気が家中に充満し、よく母に小言をいわれたものである。ボールも品不足で、不用になつた国旗のボンボリを代りに使つたりした。

練習の成果は意外に早く実り、この年の秋、近畿予選に勝つて国体出場が決定した。第三回国体である。意氣揚々と大阪駅に集まつたが、博多まで約二十時間、国体特別列車（名前はよいか）でゴトゴトと各駅停車のように止まり、着いた時にはフラフラ。狭い旅館に二チームがつめこまれたうえ寒くて眠れず、夜中仲間とソツと抜け出して女中部屋に押し入り、上布団を奪つて脱兎のごとく駆け戻

つたのを覚えている。

試合の方はいかなる理由か開会式の前日に一回戦が行われ惨敗。

翌日の式には小さくなつて、大観衆の前を行進したのも、今はよき思い出である。翌年の国体にも出場したが、今度はたしか二回戦で惜敗した。この時の思い出はありませんが、見物に行つた浅草の名ばかりの喫茶店でメニューや頼んだところ、メー乳（多分牛乳）を持ってきたのにはまいった。

甲南大学（第一期生）でもホッケー部を創ろうとしたが、部員が集まらず、ようやく卒業前年の春に発足。私を除いて全員素人の集団で、ステイックの持ち方から教え、ずいぶん苦労した。その甲斐

あってか、秋の関西学生連盟加入第一戦対京大の勝利は、生涯の思い出となつた。不安と緊張、自信なげな連中を引き連れ、一人息巻いてはみたものの、何とも心細い限りであった。試合は意外な展開をみせ、防戦一方の後半十分ごろの混戦から、松田完夫君（現ラジオ関西報道部長）が押し込み、そのまま試合終了。笛を聞いた時は飛び上がつてへたりこんだ。スポーツの醍醐味である。

以来ホッケーとの縁が切れず、最近は協会の方に力を入れているが、でもホッケー仲間は楽しい。

高校時代のチームメートの内藤修

君（現龍角散副社長）は、文字通りの親友であり、大学の監督であり兵庫協会の常任理事である高嶋良平君（現高嶋酒類食品常務）はよき後輩であり、彼もまたホッケーの虫である。

スポーツの楽しみ方にもいろいろあり、年齢や目的によつても異なるが、肉体的・精神的限界の中で精一杯努力するとともに、上達するためを考える楽しみ、一種の創造性の世界がなければ進歩しないと強く考える昨今である。

## 泳いでいる だんだん若くなつて

新宮和子

（主婦）

今から二年余り前のこと、初めて水着が着られる機会に恵まれたその喜びの反面、初めて水中に顔をつける恐怖感が先立ち「ハイ!! ビートをもつと強く」とコーチ



飛び込みのポーズもキマッてます。新宮さん

の声すら聞こえる余裕がない。一生懸命ビートをしているのに体がだんだん沈んでしまう（私のヒップが重すぎるのかしら？）他の人達はみんな軽々ビートをしている練習後、何となく気が重く帰宅する。「今日ね、水泳でどうしても体が浮かないのよ」と情けない声で主人や子供達にいうと、長男に「人間の体ってみんな浮くようになつてているのや」といわれ、今度こそ頑張ろうと思つたが、次週もやはり足が重くて浮かない。だめかな？ だんだん水泳には向かないので知れない、と自信をなくしてきた。

今から四年前、過労で倒れ家族や周囲の人達に迷惑を掛けることになり、これでは自分も家族もだめになると思い、まず健康を取り戻すことが第一と考えた。水泳が全身運動で一番体に良いと聞き、Y.M.C.A.の水泳婦人の部（松泳会）に入部した。

冬の寒い日も、雨の日も、一度も休まず練習して三ヶ月にもなるというのに前に進まない。もうやめてしまおうかと何度も思つた。が、家族の応援や馬渕さん（元オリンピック飛び込み選手）、山本さん、半沢さん、他のコーチの方々にも励まされ、最初は口ではいい表わせない程疲れもひどかつたのが回を重ねることに水にも

馴れ体も元気になり、食欲あり、睡眠充分、5kg余り体重も増えた。ある日、ふしぎなことに前に進まなかつたビートが10m程進むようになり、次回には20m、次には25m、今度はクロールの息つきもスムースに。25mを一往復二往復と進むようになり、ことばにならぬい感覚を味わうことができた。ときにはプールの水深1mあまりになつていて、ことばにならぬい感覚を味わうことができた。ときには途中おぼれかかったときもあつたことなどどこへやら。この姿を一番に喜んで下さつたのがコーチの方々。日増しに元気な姿になり、今までのヘアースタイルも水泳のため変身。「今日ね馬渕コーチから飛び込みを教えてもらつたのよ」と家で話すと主人や子供達が信じてくれないときもあつた。それからというもの、水泳が楽しくて週一度が待ち遠しくなってきた。クロール、背泳、平泳ぎ、バタフライなどだけでなく色々楽しく遊べるゲーム、ときには何分もぐつていられるかというタイムを計つたり、コーチの方々のきびしさの中に楽しいときを過ごすことができた。主婦であり、子供のいることすら忘れ、少女の気持ちに返つた気分になりだんだん若くなつていくみたい。現在、西宮ユマスイミングスクール婦人の部で会員となり週一度続けています。体

□ある集いその足あと

全関西行動美術  
野球部

辯司

洋画家・行動美術チーム監督

行動美術には野球の系譜がある。そこで、創立会員の小出卓三氏は薬専、故伊谷督藏氏は鳥取一中で選手だった。急逝した井寄氏はなかなかの速球投手で、当時文士連や京大美学と試合をし、よく勝つたそうである。

十七年前はまだ天王寺美術館の

ベンチも楽しいムードで、左端背番号30が筆者

「グローブを買ったからキャッチボールしようや」と氏の五十年代の頃よくお相手をした。氏の柔かなミート打法は流石で動きもまだまだ敏捷であった。バッティングの心得も酒の肴となり振り廻しがちな私にはよい示唆となつた。然しこの間の日々の試合は行動にとって投手に恵まれず勝てなかつたよ  
うに記憶する。

六年前私が一年余りのスペイン滞在中、鴨居玲氏もおられ、一緒にアニスの益を重ねた際、画兄も野球をやつたそうで、「一足先に帰国し行動の野球を再編して置きまですから、帰られたら二紀と定期戦をしましよう」と約束した。年の後、七四年会の事務所に無理をいってユニホーム資金を借り漸くにして今のチームが十名ばかりの人数で、荒木氏を總監督、私が旧チームとの掛橋役でプレイニングマネージャーとして発足したのが現在の全関西行動美術野球部。

酒の旨さは千金に替え難い。これ  
よりは、如何に美味しく飲むか、  
精一杯汗を流し戦の跡を肴に飲む  
なるし、また四十路に届けば酒量  
は野球の効用といえる。

再発足來の戦績を述べれば、間も  
無いこの世ヌネットーズ（元南海の  
合田、阪急の深代、サンテレビ西  
沢アナ）戦で私が六本も捕鷹飛  
を逸し十一三で破れた苦い思い出、  
兵庫歯科医師会とは対、七六年宝  
塚リーグ高松宮杯ではベストフォ  
ー、初めての参加で早朝試合でフ  
ライが見えず我々夜族チームの墓  
穴を掘つた。元町画廊杯二紀会春  
秋戦は二年になるが全勝で来てい  
る。通算十九勝八敗三分、手前味  
噌ながら制球のよい北田、強肩巧  
守の大塚外野手、三、四番の守谷  
佐藤は何処に出しても恥じない。  
また相手からは目の上の瘤、応援  
団長染色家、河内の姐さん小角女  
史の存在を忘れてはならない。十  
勝の時、小出氏はウインドブレー  
カーを揃えてくれたし貝原氏の支  
援にも感謝している。

人は知らずしらずの内に世間のおしきせを着てゐる事があり、美術団体の中であつても、会員を目指し頑張るわけですが、そうなつてみると、若い人と何げ無く話してゐる積りが蟠まる事があります。

それを円滑にするにも、好きな事で裸で付き合えるものが潤滑油に

〒565 試合お申込み先・連絡先  
吹田市青山台二一六B3の103

11月14日(月)全館完成オープン  
11月14日(月)より——全館完成感謝期間実施!



◆ 住友信託銀行  
神戸支店

〒650  
神戸市生田区元町1丁目 大丸西向い

☎ 078 (321)1 1 3 1 (大代表)

大きな利息が何より魅力

**住友の貸付信託**

- 元金保証
- お預け入れは1万円単位
- 募集締め切り日より1年以上たっていれば期間に応じた利回りで中途換金もできます。

積立て貯蓄の決定版

**虹の通帳 積立てコース**

- お預け入れは1回5,000円からいくらでも
- 期間は5年以上で、自由に決められ満期日にまとめて受け取れます。
- ポーナスで積み増しをしたり、積み立てを休んだり、いつでも予算に応じて自由にお預け入れができます。

お近くの郵便局からも申し  
込めます（送金料無料）

専用の申込用紙をお送りしますのでご請求下  
さい。

□私の交友録／若き日の画家と作家達 △5▽

# パリの日本人

伊藤慶之助

△画家・春陽会会員▽



筆者をはじめ多くの日本人が住んでいたパリ、リュ・デュトのアパート裏庭で。（昭和6年秋）右から筆者、マダム・テッバーズ、コンセンリュジュ夫妻

のアパートに住んでいた。

隣りの室の婦人は終日コトリとも音のしない静かな人で、何をする人だろうと思っていたが、ほどなくこの婦人が廊下で話しかけてこられて……私の室に日本の人写真がたくさんあるから遊びに来ませんか……という。

さそられるままに行つてみると、マントルピースの上にもピアノの上にも壁に古い日本人の写真がいっぱい掛っていた。見ると髪を分けた若き日の小杉放庵、山本鼎、満谷国四郎、足立源一郎などの写真で、七歳ほどの少女も一緒に写っている。……この少女は私で、私の父はフアルギエールに貸し、アトリエをたくさん持つていて、小杉、山本、満谷などの若い日本人の画家が住んでおられた。私は可愛い少女だったので、これらの日本人の皆さんに非常に可愛がられ、いまだに日本人達への美しい思い出が、深く胸に残つて忘れることが出来ません。このリュ・デュトのアトリエも、胸に焼きついた幼き頃の思い出から日本の画家の人達に入つていただきたく思うのです……とマダム・テッバーズは話していた。小磯良平、島崎鶏二の前にも大久保作次郎、金山平三、柚木久太なども住んでおられ、私のアトリエの片隅に日本字で金山平三と書かれたカルトンがまだ置かれていた。

……日本人達は皆さん親切で人の好い方ばかりで、皆さん日本に帰つたら日本の着物とか人形を送るといって帰られるが、誰も送つてくれたことがない。柚木久太だけは時々日本の景色のハガキをくれた……と、アパート近く、私の移る少し前まで小磯良平、島崎鶏二などもこ

のあるじ、マダム・テッパーは目を細くしてしみじみ語つていた。その頃、年に一度、芸者を連れてパリに遊びに来られる播磨老人という人があった。神戸の播磨ゴム、播磨マッチなどの老社長で印度にあるハリマゴム工場の視察ついでにパリまで足をのばし、最初は神戸花園の芸者屋中村屋の女将を連れてこられ、宮田重雄、益田義信、私などがひまを見て案内したが、和服で来た女将が、パリモードの服をつくりたいといいだした。急で充分注文する日数がないので、百貨店トロア・キャルティエに案内した。店員が寸法をとっている間、私達は売場で待っていると、急に周囲の買物客が何かさわがしい気配になってきたので、見ると女将がなまめかしい長じゅばん姿で、足袋はだしでこちらに走つてくるのが見えた。……バラバラ何かいいはるけど、さっぱりわかりま

へんので思いあまつて走つてしまひてん……。群衆の好奇の目が私達に集中して、私達は思わず顔をふせた。

次の年は、東京新橋の若い芸者を連れてこられたが、芸者は一人でシベリア鉄道で日本に帰つてしまつた。淋しくなつた播磨老人は、身辺の世話をするフランス娘を紹介してくれという。金を充分くれればアミになるというマドモアゼルを見つけて、顔合せに支那料理に行つた。

食事が終つて、老人がトイレに行かれた間に……ムツシユ・イトー、私はハリマのアミになるのをやめた……といつて貰つた金を返して帰つてしまつた。食事の後で播磨老人が総入歯をはずして洗つているところを娘に見つかって、せっかくのアミがだめになつた。

その頃芸術家の生活の場が、モンマルトルからモンパルナスに移つて、キャッフエー・クーポールやキャッフエー・ドームなど連夜若き画家や文士などのはでな行動で賑わつた。世界的な写真家マンレイがモンパルナス附近の画廊や書店で個展を開き、「モンパルノー」で評判のモデルのボス、キキも毎夜のように若い画家や子分のモデル女達に、とりまかれ、はでな遊びをしていた。キキは写真家マンレイの夫人だが、年末になると子分のモデル女達を多くさん引きつれてモンパルナスの劇場で派手なバレーの公演をやつて、収入を貧乏な画家と家族の越年資金に寄贈した。この写真のキキを中心にはついていたモデル女達は私達のアトリエに通つてくる顔なじみのモデルで、画家達は前もつてモデルからこの入場券を買わされる。ある時、伊藤廉が話しておられた。……昨夜モンパルナスのキャッフエで座つていたら、中年の婦人が隣りに座つてぴったりからだをすりつけるようにおしゃつてくるので、びっくりして座を立つたが、後で気がついたらズボンのポケットからハンカチが出していた……と笑つておられた。ズボンのポケットからハンカチをのぞかせていることは婦人の要求に応ずるというサインなのである。



貧乏画家に越年資金を贈るためにモデルのキキ（右から三人目）が主催したバレー公演で踊るモデルたち。（昭和5年）

# 蹴球、黄金のころ

高木 正雄

△神戸商科大学学長▽

神商大、早大を降す——第九回朝日招待サッカー、神商大、早大に勝つ——朝日招待サッカー、といった二段抜きないし三段抜き見出しで當時関西の新聞はいつせいにその戦績を報道したが、いずれも大番狂わせであるとし、その理由を早大の練習不足とか神商大の闘志むき出しの搅乱戦法に早大がひつかかたためといっていた。

時は昭和二十六年一月十五日、サッカー最高の権威である朝日新聞社招待で関東の雄早大を敵にまわしての本学サッカー部の戦いであった。その日わがサッカー部は堂々と互角に、否むしろ終始優勢裡に戦いながらも、前半に一点、後半再開後間もなくまた一点と流石に試合巧者の中大に先手を取られ、一時応援する者をしてやきもきさせた。しかし商大勢は少しもひるまず、絶妙なコンビネーションと旺盛な闘志によつて、大方の予想に反して終盤に近づくにつれて續けざまに三点を獲得し、遂に逆転優勝をなし遂げて万丈の気焰を吐いたのである。

本学サッカー部の沿革をみると、昭和六年に関西蹴球連盟に正式に参加、大学高専サッカーリーグ二部に初出場するや連戦連勝、破竹の進撃を続けて全勝優勝を飾つて一躍一部にランクされ、その後長らく京大、関学、関大の三強に伍して大いに活躍した輝やかしい歴史と伝統をもつていた。戦前全国高商大会で優勝三回を記録し、当時難攻不落を誇っていた京大を降した（昭和十四年）といふ誇るべき戦績も残している。戦争中は一時中断のやむなきに至つていたが、戦後いち早く復興したところ

たまたま学制改革によって新制大学に衣替えされたため、対早大戦に出場した選手はおおむね三年ないし五年間本学でボールを蹴っていた者ばかりであった。また彼らの多くは旧制中学時代からの名プレイヤーであり、しかも軍隊生活の経験者であった。これがために、一匹狼の集まりで統制がとれないことが部にとって最大の悩みであった。この時に何よりの精神的支えとなり、部員の大同団結に与つて力があつたのが、サッカー部創立以来ずっと部長としてあるいは顧問として部の面倒を見て、合宿にも対外試合にも必ず姿を現わして部員を叱咤激励し、部員から絶大なる信頼と尊敬をうけていた田中博教授（昭和四十九年夏逝去）の終始一貫して変わらぬ熱意であった。それに技術面では、当時朝日新聞社のスポーツライターとして知られていた大谷四郎氏（神戸一中・一高・東大を通じての名選手、令兄大谷一二君——東洋紡績社長——は本学の前身高商第二回卒で、往年の名足として令名を馳せた）が昭和二十五年春から一年間週一回、時には二週間に一回多忙の中を態々来学の上親しく指導してくれたのであつた。氏は十数年後のある機会に当時を憚んで「商大のコーチは楽しかった」といいつ……朝日招待で早大を破つたことも、私自身が選手時代にあれこれの優勝を克ち得たとき以上に愉快な思い出となつた。コーチとしてひそかに練つた計画がすべて実現した。卒直にいって技術的にズバぬけてはいなかつたが、みんなある水準に達した技術と素質が揃つていただけでなく、

一人残らず実に素直に私の指示を受入れ信頼してくれた……」と語り、試合前に自ら早慶戦を親しく観戦して来て、猛突の早大バックスに対しても早い球離れでかわしてウイニングを走らせることにし、守備では、早大のエース松永がボールを持ちたがるくせがあるので利用して、極力ボールを持たせて逆行詰まらせるなどワナをかけようとしたところ、本学選手が



サッカー部創設以来顧問として尽した田中博教授

早大に逆転勝ちした第9回朝日招待サッカー大会出場のメンバー（昭和26年1月15日、西宮球技場）



第9回朝日招待サッカーフェスティバル

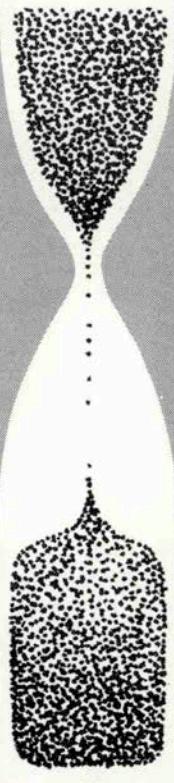
この戦法を0—2とリードされていても忠実に最後まで実行したのが勝利につながったと述懐している。大谷コーチの技術面や作戦上の適切な指導に加うるにここに特筆しなければならないのは「殺人トレーナー」の異名<sup>あだな</sup>をもつて呼ばれた松葉徳三郎講師（当時朝日新聞社在勤昭和二十四年から四十八年まで本学非常勤講師として体育実技を担当）のファイトにみちた猛訓練によって体力が養われていたことである。

この大谷四郎氏といい、また松葉徳三郎氏という比類<sup>たぐい</sup>まれな人材に本学が恵まれたのは、新制大学になった時に初代学長として小島昌太郎博士を迎えたことに胚胎する。小島学長の下に初代学生部長を勤めたのが田中博教授であった。田中学生部長は前述のように長年サッカーデ部分長であつたばかりでなく「学問とスポーツを以て人格の陶冶を図る」ということをその信条としていたが、小島学長もこれに同意した。そして小島学長が京大時代の門下生でスポーツマンでもあった上野淳一氏（現朝日新聞社長）を田中部長の直属の部下である学生補導課長に迎えた。上野氏は大の学生好きで、何とかして「学生生活に花を咲かせたい、実も結ばせたい、充実した快い思い出や希望にみちた大学にしたい……」といった夢をえがいて学生の指導に当った。その一つが体育運動の振興のために松葉氏を講師に招いたことであり、他の一つがサッカーのコーチとして大谷氏を迎えたことであった。だから、すべては小島——田中——上野——松葉——大谷——本学の優勝という不思議なえにしによつて結ばれていたのである。

序でながら、同じ年の秋全国学生陸上選手権大会で浜崎芳宏が二十キロで優勝し、神宮競技場のメインボールに商大旗をひるがえし学歌を吹奏させ、上野氏の夢がかなえられ松葉氏が満面の笑をたたえたことを簡単に紹介しておこう。またこの時期には、学問研究熱も極めて旺盛で幾多の優秀な学者を輩出して田中部長の信条が二つながら酬いられたことを付記して結びとしたい。

★キャンペーン

国際文化都市神戸を  
考える



# ファッショング都市づくりに メンタルな配慮を

外島 健吉  
嘉納 正治  
中内 力

（神戸商工會議所会頭  
株式会社神戸製鋼所相談役）  
（神戸商工會議所副会頭  
白鶴酒造株式会社会長）  
（シンエーフーズ株式会社会長）

森本 泰好  
（神戸地下街株式会社常務）  
（株式会社キャラバン神戸店長）

★ファッショング都市づくりの参考になる「FIDM」

神戸市は現在ファッショング都市づくりを目指しており、行政・経済界・市民が一体となっていろいろなプログラムが進行している。

ファッショング都市神戸の今後百年はボート・アライアンド・海上都市の動向いかんにかかっている。さらに、それと対応する形で既成市街地の整備も急を要するところである。

キャンペーング「国際文化都市神戸を考える」では

国際文化都市として神戸はいかに、どうあるべきかを文化、経済、行政各界の方々により各論のよりつ込んで問題提起と分析を行い、国際文化都市への実践的な指針を開拓するものである。

今回はこのほど帰国した米国経済観察団の一行にお集まりいただき、ファッショング都市づくりに取り組む神戸に参考となることをお話ししていただいた。

原則なんですけどね。  
ファッショング関係ではニューヨークとダラスへ行きました。ダラスでは金持ちが土地や金を寄附して、ワールド・トレード・センターをつくっていますが、日本じやとても出来ない。第一、税制が違う。  
それと古いものを大事にする。使えるだけは使うといふことが徹底している。日本人は性格的にどうもあきやまい。神戸はファッショング都市づくりを標榜しているの

だから、神戸の古い昔の良いものはそのままの姿で保存し神戸の良さを保つことが必要ですね。異人館なども建てかえないままの風景を維持する。そういうことがぜひ必要です。

嘉納 今回の視察は神戸のファッショナブルな生活文化都市づくりには大いに参考になったように思います。たとえばダラスの展示場。これは羨やましい限りですがとても真似は出来ません。展示場にはメーカーが拠点をかまえて展示会が終っても連絡場所を置いている。ポートアイランドにそういうものをつくるという努力が必要でしょうね。ロス・アンゼルスも再開発が進み大きなショッピングセンターも出来ています。ヒューストンのショッピングセンターもすごいのですが、客観状勢はこれでは成り立たないだろうと思われるほど入っている客が少ないんですね。ただコマ取りは日本の三倍ほどもあり、相当ゆったりしています。

ダラスはいわゆる中南部のファッショントの中心地です。アメリカのアパレル、あるいは、ブティックがそのまま日本へ入ってもともとお客さまは満足しないという現実があるかも分りませんが、小売業者は問屋と熱心に商談をしている。今度、ポートアイランドに出来るメッセにもああいう展示場方式が取り入れられることが、問屋業を神戸に定着させる一つの手段になるのじやないかと思います。

神戸の新しい町づくりでは、北野界隈にても異人館の保存には市の助成補助をぜひ考えて欲しい。一般もこいう公共物に対してこれは我々の遺産なのでもっと大切にしようとの気持ちが欲しいですね。ファッショント都市を経済的にも成り立たせないといけないし、人材養成も必要です。しかし、それと共にそれを利用し享受する側の人の公徳心というか、ものを大事にする気持ちが最近の日本人には欠けていますね。それを養うことが神戸が生活文化都市になり得る大きな要素です。

外島 アメリカのかつての投げ棄て文化をそのまま日本

人が受け取っているわけですね。ところが今度行つてみてよく判つたのですが、ものすごく節約をしていますね。

森本 神戸にはファッショント都市を目指す手だてとしてF I T (ファッショント工科大学)がよく引き合いで出されていました。今度ロス・アンゼルスでF I D M (ファッショント・インスティチュート・オブ・デザイン・アンド・マーチャンダイジング)を見て來たんですが、神戸が考えるのならF I TよりもF I D Mの方が下敷きとしては現実的じやないか、もう少し本格的に検討をして、こういうものなら神戸でも可能じやないかという気がします。芸術大学は行政の方でやつていただき、プロのファッショント選手を育てる学校はF I D Mをお手本にして神戸の業界の方々で何とかつくつていただきたいと思います。

森本 人材の育成ということでF I D Mで注目しましたのは法人經營でやつているようですが、F I D Mに関連するメーカー、小売りが三千六百社ある。この三千六百社が何らかの形でバックアップしているわけですね。F I D Mを卒業した人は関連企業へ就職が出来、あるいは、関連企業の社員がF I D Mへ勉強に行く。講師陣の構成は理論派と実践派に分かれ、学生は今のアパレル企業はどういう人材を求めているかが肌で分るし、企業の方も教えるながらそれを説明出来る。単に就職するためいい成績を上げるというのじやなく、すぐ社会に役立つ若い人材が育ちやすいですね。

森本 ロスのダウンタウンの大きな家具屋の入つているビルの五、六階で大きさは六万平方フィート。一九六八年に三人の先生と七人の生徒で開講した。それが今は生徒数は二千二百人。サンフランシスコに分校まであります。教師数は非常勤まで入れて百五十人。コースはデザインとインテリアとマテリアルの三部門に分れて、それがさらに細かく分かれている。入学資格は高校卒以上。コースの一つは年で千九百ドル。協力している企業のな



嘉納 正治さん



外島 健吉さん

かには小売りもありますが、生徒はみんなそこへ実習に行くので月に三百五十ドルは稼げる。働きながら勉強をして二年で卒業して、二年間実地に働いて、さらに上の専門コースが二年ある。その他、図書室や資料室もあり狭いながらも充実しています。

#### ★町づくりにはメンタルな面での配慮が必要

**森本** 最近アメリカに出来つのあるショッピングセンターはどうやらかといふヒューストンのように大きなものじゃなくもとと小型になつて、いろんな工夫をして来ています。私流にいわせてもらうならコンクリートと鉄のジャングルから自然との調和、人間との対話を大事にした人間的なぬくもりのある、日本式にいえば情緒のあるショッピングセンターに形が変わって来ている。そういうメンタルなものを大事にする傾向がショッピングセンターだけじゃなくホテルのロビーにも出ているし、国際

展示場にもそういう考え方方が入つて来ている。万事、あらゆるもののが生活文化の豊かさといったものを背景にしてハードな施設にまでメンタルな配慮を大事にしている傾向があちらこちらに出ている。これは再開発の状況を見てもそうですね。こういう配慮はこれからつくるボトライランドでも当然考えなければならない。あまり便利さだと、効率のよさばかり追い回したら結果的には消費者からソックボを受けられる。そういう気がします。

ニューヨークの今までの一番の強さは文化集積にあつたが、その集積された文化が風化し始めている。これがニューヨークの一番の問題だと指摘している方がいらっしゃいましたが、この問題にも同じようなことがいえるのじやないかと思います。

これから問題点の一つは市民が生活の質の向上、生活文化を充実させて行くというところへすべての眼が向いているということ。これを考へると、ポートアランドに国際会議場、展示場をつくるときにメンタルな面での配慮を考えないといけないです。

**中内** 年に二回くらいアメリカへ行つているわけですが、今回行つて気のついたことの一つは、ニューヨークは益々汚なくなつて来たということですね。ところがロス・アンゼルスは段々ときれいになつて來た。

何故かと云ふと、美化運動が活発に行われているからですね。各地の住民団体がまつたくのボランティアで活動に活動をしている。こういう住民運動があつてはじめで町がきれいになつて來ているわけですね。

**森** 私はアメリカのマーケットに注目して見て来ましたが、ファッショントリックに注目して見て来ましたね。神戸をファッショナブルな町にしようという住民運動にまで広げる必要がありますね。

今、神戸がファッショントリック都市を目指して行政、経済界が努力をしているのですが、町をファッショナブルにするという観点からいうと住民にそういう意識をもつてもう。



森 尚道 さん



森本 泰好 さん



中内 力 さん

同じといいますか、決して日本が引きをとるということはないと思しました。実際に町を歩いている一般の人たちのファッショնは非常にシンプルで質素ですね。特に日本と違うのは若い人が非常に質素なんですね。

デパートに関してはターゲットが非常にハツキリしていますね。ニューヨークだけでも十数店ありますが選別されているのでオーパーストアということはないです。デパートに関してはターゲットが非常にハツキリしていますね。ニューヨークだけでも十数店ありますが選別されていますね。

ショッピングセンターも各地区でいろいろと回りましたけれど、代表的なところでニュージャージーにパロマスというショッピングセンターがありますが、自然志向といいますか本当に楽しいショッピングセンターで、公園という感じで楽しさが出ている。専門店街のなかに子供の遊園地があり、そのそばに子供服の店やおもちゃ屋がある。そこに来ている人の服装を見てもラフなカジュアルで散策に来たような感じで賑っていました。ヒューストンのガレリアというショッピングセンターは、一流的デパートが核になっているんですが、一階の一番いい場所にスケートリンクが出来ている。消費者の方がスポーツをしながらショッピングをし、食事もしとうにレジャーの一つかシヨッピングであるという環境づくりが出来ていますね。ショッピングセンターでひとが集まっている共通点を見ますと地域に貢献し消費者に楽しんでもらっているということを優先している。

ダラスのワールド・トレード・センターのなかのアパレル・マート(館)を視察したんですけど、丁度、婦人、子供服の見本市をやっていました。ただ単に服だけじゃなくて、アクセサリーからバッグまで含んだ完全な服飾のトータル店が入っている。全米やヨーロッパ、極東からも相当仕入れに来られているみたいでした。ポートアイランにも神戸のアパレルだけじゃなく、全国のアパレルメーカーが集まって全国の人を神戸に引きつけるようにしないといけない。

町づくりでは特にサンフランシスコは神戸に似ているとよくいわれるので、坂があり山があり海がありと

ね。そのなかで全米小売第一にのし上がったメイシー一百貨店は大衆のニーズを見事にとらえていますね。一番効率のいい売り場は地下街の食料品売り場。ハイムードでロープライスの商品がおいてある。ブルーミンデールというデパートはここ一、二年高成績を上げていますが、都会的なセンスをもった大衆的にを絞って商品構成をしている。

いう自然の良さ、ロケーションを生かした町づくり、ショッピングセンターづくりをやっている。自然や資源を大事にしていますね。

**中内** 最近建つた新しいホテルを中心に見学して来たんですが、アメリカの都心型ホテルの傾向として二つハックリ出でて来ています。一つは会議施設を充実する。もう一つは市民のオアシスとしてホテルを機能させる。たとえば、我々の泊ったホテルの場合も四千人までまかなわれ大規模な宴会施設をもつてている。さらに展示会場でもついているわけですね。オアシス的なものとしてはスカイレストラン、スカイラウンジの二つを必ずといつていいほどに備えていますね。五時を過ぎると客がスカイラウンジやバーをつくつてますけど、市民がよく利用し、客をいかに集めるかということに非常な努力をしている。

### ★ポートアイランドは二十一世紀神戸の起爆剤

**外島** ポートアイランドについてはまず人が集まるのを考えないといけないです。それと同時に大阪など近くの人はいいとして、東京など遠くから来る人にはポートアイランドだけでは魅力不十分だから北野なりと一緒に回れるようにする工夫が必要ですね。それには役所だけじやなしに民間がアイデアを出してやらないとダメですね。神戸に人を集めることをまず考えないといけない。それには神戸の町がファーツショナブルであるといいわけです。これは北野にも出て来ています。こううものが受け入れられる時代が来たと思いますね。減速経済に入って来て消費者が少しウエットになって来ているという気がして仕方がない。ポートアイランドは確かに二十一世紀の神戸の起爆剤にはなるけれどそれだけで

はどうにもならない。神戸の良さは海と山とが近い。そういう意味で観光産業の見直しをすべきだと思いますね。そのときに問題になるのが町が美しいこと、それと美味いものが食べられることですね。

もう一つポートアイランドの問題点は、施設は役所の力でつくれると思いますが、つくつたあのマネージメント、経営ですね。それは何も採算の問題だけじゃなしに、来た人を楽しませるという努力を積み重ねることですね。町の性格が薄れること、風化が一番こわい。だから古いものを大事にする。その町の個性、ローカリティを積み重ねて行く。神戸の場合、これしかないです。

**嘉納** 神戸は観光ということにもっと力を入れ、異人館

もアピールし、食べるものにも神戸ならではというものが必要ですね。もちろん、雰囲気をつくるということでも町の清潔さ、町並みも大事です。

**中内** ファーツショナブルな町というものは常に新しい動きを出さないといけない。すべてを計画的にやれば、いかにいいものが出来てもいつ行っても同じ店が並び同じことをやつているということになる。町に変化が必要ですね。神戸も遊園地とかポートアイランドを使って小さなスペースというものを設定すべきじゃないかと思いますね。夜店のようなものですね。

**森本** 楽しさ、賑わいの演出が要りますね。いうところのパーソナルビジネス、手づくりの商品、高度の労働集約型産業の見直しですね。

**中内** それとポートアイランドでは、交通の便が問題ですね。ポートアイランドのホテルには五百台の駐車場をつくる。市の方でも三千台の駐車場をつくってほしい。そうすれば人が集まる。そこから新交通システムで三宮へ行つてもらう。三宮で買い物をして、また、ポートアイランドへ帰つて来て食事をし、車でお帰りいただく。外島 今度の視察によつて得た成果を視察団員以外の人、一般市民にもどういう形でPRし、どういう形で実際に歩いて行くか、これからやらなければいけないです。

**田崎真珠株**

取締役社長 田崎俊作  
神戸市芦合区旗塚通6の3の10  
TEL (078) 231-3321

**オールスタイル株**

取締役社長 川上 勉  
神戸市生田区伊藤町121  
TEL (078) 321-2111

**株ワールド**

会長木口衛  
神戸市芦合区磯辺通3丁目2の17  
TEL (078) 251-5311

**カネボウベルエイシー株**

取締役社長 稲岡必三  
神戸市生田区三宮町1丁目43番地  
TEL (078) 392-2101

**株ベニヤ**

取締役社長 松谷富士男  
神戸市生田区三宮町1丁目54  
TEL (078) 332-3155

**モロゾフ株**

取締役社長 萩野友太郎  
神戸市東灘区御影本町6丁目11番19号  
TEL (078) 851-1594

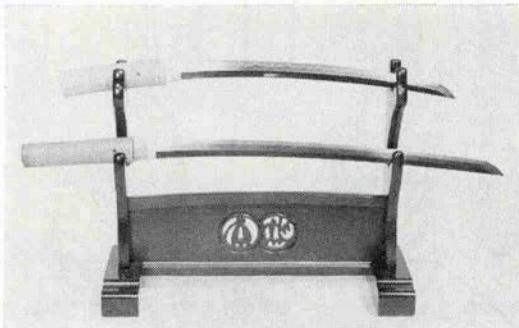
**入船株**

取締役社長 小泉進吉  
神戸市灘区新在家北町1丁目1-19  
(阪神電鉄新在家南) ブリコビル3F  
TEL (078) 851-3191



キャンペーン「国際文化都市神戸を考える」の企画は以上7社の提供によるものです。

# 刀劍 古美術



脇差 白サヤ 銘 清実(二王)

長さ51.6cm(1尺7寸)¥260,000(貴重刀剣認定書付)

脇差 白サヤ 銘 備前国長船住祐定作  
長さ39.8cm(1尺3寸)¥430,000(特別貴重刀剣認定書付)

鑑定 買入 刀剣 研磨 その他工作

一ヵ月仕上 是非ご用命下さい。

お支払いに便利なローンをご利用下さい

刀 剣 古 美 術  
元町美術

神戸市生田区元町通6丁目25番地

TEL 078-351-0081



## マロングラッセ

この秋実った大粒の丹波栗を  
一粒一粒に丹精こめて  
つくりあげた鳳月堂の  
銘菓マロングラッセ



創業80周年

80



神戸鳳月堂

本社／神戸元町3丁目 ☎078 (321)-5555

